

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	国際学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導(専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2010年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 1年次に履修する国際基礎科目の基礎演習科目「基礎演習A」、「基礎演習B」、「Basic Seminar A」、「Basic Seminar B」は、原則として国際専門科目担当の専任教員全員が担当し、1クラス当たりの人数を、10～20人とする。	→1. 指標：基礎演習科目「基礎演習A」、「基礎演習B」、「Basic Seminar A」、「Basic Seminar B」の1クラス当たりの平均人数の超過率 評価基準：1.0以下…評価A、1.01-1.20…評価B、1.21-1.40…評価C、1.41以上…評価D		A	A	A	A
2. 3年次、4年次の国際専門科目の研究演習科目(「研究演習I」、「研究演習II」、「Research Seminar I」、「Research Seminar II」)も、原則として国際専門科目担当の専任教員が担当し、1クラスあたりの人数は、10～20人とする。	→2. 指標：「研究演習I」・「Research Seminar I」、「研究演習II」・「Research Seminar II」の1クラス当たりの平均人数の超過率 評価基準：1.0以下…評価A、1.01-1.20…評価B、1.21-1.40…評価C、1.41以上…評価D(2013年度の達成を目指す)		D	A	A	A
3. 毎学年度の始めに、全科目のシラバスを学生にWEBにて提示する。	→3. 指標：全科目数に対するシラバスの掲載率 評価基準：95%以上…評価A、90%以上…評価B、85%以上…評価C、85%未満…評価D(2013年度の達成を目指す)		A	A	A	A

<p>4. 国際学部カリキュラム委員会を設置し、毎年度、成績評価が（原則に従って）厳格に行われているかを検証する。</p>	<p>→ 4. 指 標：当該年度における、カリキュラム委員会での検証の有無</p> <p>評価基準：実施した・・・評価A、実施しなかった・・・評価D</p>	
---------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------	--

2011年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況(達成度)報告》 **担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。**

上記で自己評価した目標の進捗状況（達成度）について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部長室委員会での検討により、基礎演習科目の1クラス当たりの平均人数は20人を大幅に下回り、少人数教育は達成できている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 基礎演習科目「基礎演習A」、「基礎演習B」、「Basic Seminar A」、「Basic Seminar B」の1クラス当たりの平均人数11.26人超過率0.56であった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 教員の留学、特別研究、大学院科目担当等により、基礎演習を担当する教員が減る可能性があるため、FD研修会にて基礎演習の在り方について議論を開始した。</p> <p>その他</p>	☆
目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部長室委員会での研究演習選択手続きの検討により、研究演習科目の1クラス当たりの平均人数は20人を大幅に下回り、少人数教育は達成できている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 「研究演習Ⅰ」、「Research SeminarⅠ」、「研究演習Ⅱ」、「Research SeminarⅡ」の1クラス当たりの平均人数9.97人、超過率0.50であった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 教員の留学、特別研究、大学院科目担当等により、基礎演習を担当する教員が減る可能性があるため、また学生の海外留学への対応とあわせ、研究演習の1学期週2コマ開講や、年度を跨いだ継続履修を認めるなど、柔軟に対応している。</p> <p>その他</p>	☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学年度の始めに、全科目のシラバスを学生にWEBにて提示した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学生はシラバスに従って、授業準備を行うことができている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 引き続き、全科目のシラバスを学生に提示する。</p> <p>その他</p>	☆

目標4	D	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか カリキュラム委員会を5回開催し、カリキュラムに関する検討を行った。また、同委員が含まれている学部長室委員会の全32回において「教務に関する件について」検討を行った。ただし、成績評価が厳格に行われているかの検証については、開設4年目となり各教員の成績評価も安定してきたため、議論は行わなかった。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度は完成年次であり、次年度以降のカリキュラムについて検討を行い、学則改正、「履修の手引き」等の改訂を行い、2014年4月から実行した。成績評価については大きな問題はなく、特に変更する点はなかった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2014年度以降のカリキュラム・成績評価について、カリキュラム委員会にて継続的に検討を行う。	☆
		その他	☆
備考			☆